

## 子育て支援ツールとしての赤ちゃん絵本の開発と 配布システムの構築

The new way of child-support program through the development of  
picture book for baby and the formulation of distribution system

濱 田 格 子\*

Sadako HAMADA

### 【抄録】

子育て支援の目的の一つは、親の適切な子育て行動を引き出すことである。現代の子育ての問題は、子どもとの愛着がうまくいかない親が増加しており、そこから母親の行動の問題が生じているとの指摘がある。現実には、おむつ替えを無言で行ったり、テレビや携帯に気を取られながら授乳する母親は多く、まだ言葉を話さない0歳児に対して、話しかける大切さが理解されていない。

親が話しかけ、子どもが喜んで反応し、それがまた親に喜びを与える。このような言葉を介した赤ちゃんとのやり取りを推奨するのが、ブックスタートである。ブックスタートで配布される絵本は、通常は市販の赤ちゃん絵本から選ばれており、それらはおおむね赤ちゃんの発達に主眼を置いたものである。

筆者は、ブックスタートで使用する絵本を母親の養育行動を引き出すツールとしてとらえなおし、母親から子どもへの言葉かけに主眼をおいた絵本を開発した。また、絵本は保健所のアウトリーチ事業で配布し、その際の留守家庭に対するフォローには子育て拠点施設を活用した。本稿は、子育て支援ツールとしての赤ちゃん絵本の開発と、その配布システムの構築を通じて、子育て支援の新たな方法を提示するものである。

### Abstract

One of the purposes of child-support programs is to bring out parents' proper action of raising children. The problem of modern child-rearing is increasing specifically parents who can not communicate well with children, which causes some problems. In fact, there are many mothers who change the diapers in silence, and who breastfeed while talking on their cell phone or watching TV. The importance of talking to a baby who does not utter words is less understood. When parents talk to babies, they react delightedly, and it also gives parents a delight. Bookstart recommends communication with babies using words. The

---

\* 関西国際大学教育学部

picture books, which are distributed from Bookstart, are selected from commercial picture books for babies, and basically they emphasize the development of a baby. The picture books which are used in Bookstart as a tool to bring out mother's nursing performance were redefined, and created. Also, the picture books, which emphasize talking between mother and child, were created. These picture books were distributed to outreach project of the healthcare center, and are used at child-nurturing facilities as support for of the absent home. This article brings up the new way of child-support program through the development of picture book for child-support and the formulation of distribution system.

## 1. はじめに

子育て支援は、少子化対策として国の重要施策に位置付けられ、現在、市町村単位で、さまざまな子育て支援事業が実施されている。子育て支援の目的の一つは、親の適切な子育て行動を引き出すことである。現代の子育ての問題は、子どもとの愛着がうまくいかない親が増加しており、そこから母親の行動の問題が生じているとの指摘がある。現実には、おむつ替えを無言で行ったり、テレビや携帯に気を取られながら授乳する母親は多く、まだ言葉を話さない0歳児に対しても、話しかける大切さが理解されていない。

親が話しかけ、子どもが喜んで反応し、それがまた親に喜びを与える。このような言葉を介した赤ちゃんとのやり取りを推奨するのが、ブックスタートである。ブックスタートは、絵本を使って親子の関わりを促進しようとする子育て支援事業である。また、実施当初より、保健所、保健センターといった母子保健の部門だけでなく、図書館などの社会教育施設、保育課等の子育て支援の部門、さらに読み聞かせボランティアなどの地域市民など、複数の組織の連携による事業であるところに大きな特徴がある。

本稿は、子育て支援を目的とした絵本と、その配布システムの構築を通じて、子育て支援の新たな方法を提示するものである。

## 2. 子育て支援としてのブックスタート

### 2.1 ブックスタートの目的

ブックスタートは1992年にイギリスのバーミンガムで始まった活動である。労働者階級の多く住まうバーミンガムにおいて、どのような家庭に生まれた子どもにも「本」と出会う機会を提供するこの活動は、識字率を上げることが主要な目的としていた。そのため、追跡調査においても、就学時の言語面および計数面の思考能力の発達が調査されている。(武田、大村、2009)

日本には、2000年の「子ども読書年」を契機として、ブックスタートが導入された。当時、少子化への危機意識が高まり、多くの母親が感じている子育て負担感を軽減することは喫緊の課題と考えられるようになっていた。また、日本は識字率が高く、英才教育や早期教育を疑問視する声も強い。そこで、ブックスタートは子どもの教育を目的とした事業ではなく、良好な親子関係作りや地域のネットワーク作りを目的とした子育て支援事業として導入された。原崎ら(2009)の行ったブックスタート事業の効果測定にも、「親の育児ストレス」の項目が挙げられている。

また、山崎も (2009), ブックスタート事業における図書館司書と保健師の協働の意味について言及している。

## 2.2 子育て支援におけるブックスタートの位置

ここで、子育て支援について整理してみる。事業の対象によって、表1のように、①親・子育て家庭、②子ども、③社会・支援者、の3つに分類し、さらにそれぞれを、a) 一般支援とb) 特別支援の2つに区分する。たとえば、ベビーカーでも移動しやすい幅の広いエレベーターの設置や、育児支援に積極的な企業の表彰、子育て支援者の育成などは、③社会・支援者のa) に分類される。また、乳幼児医療費の無料化や子ども手当の支給、つどいの広場は、①親・子育て家庭のa) 一般支援であり、発達障害の子と親の親子教室は、①親・子育て家庭のb) 特別支援である。さらにこの枠組みを細分化する場合は、子どもの年齢層 (ア. 乳児, イ. 幼児, ウ. 学童, エ. 中高生) を縦軸に、事業の個別の課題 (母親の子育て負担感の軽減, 子育て家庭の孤立防止, 父親の育児促進, 児童虐待の家族の再統合・・・) を横軸に組み入れる。(濱田, 2005)

この分類では、ブックスタートは、①親・子育て家庭の、a) 一般支援であり、さらに年齢層は、イ. 乳児、個別の課題は、母親の養育行動 (言葉かけ・遊び) の促進、と考えられる。また、ブックスタートに付随する読み聞かせボランティアの育成や、関係機関の連携会議は、③社会・支援者のa) 一般支援、対象は乳児、課題としては子育て支援者の育成とネットワーク構築となる。

(表1) 子育て支援事業のフレームワーク

		一般支援					特別支援	
		母親の子育て負担感の軽減	子育て家庭の孤立防止	父親の育児促進	社会資源の整備		家族の再統合	
親・子育て家庭	乳児							
	幼児							
	学童							
	中高生							
子ども	乳児							
	幼児							
	学童							
	中高生							
社会・支援者	乳児							
	幼児							
	学童							
	中高生							

濱田格子 (2005)「児童発達コース学生と考える“地域における子育て支援”」児童発達研究 第9巻より改訂

### 2.3 A市におけるブックスタート事業

A市（関西圏都市部、年間の新生児数は2009年で約4100人）では、2004年に策定された次世代育成支援対策推進行動計画において、ブックスタート事業（関係機関は保育課、保健センター、ボランティアセンター）を、6ヶ月健康診査時に絵本の読み聞かせを実施するとともに、啓発用リーフレット（赤ちゃん絵本30冊のブックリスト）を配布する事業とした。（後に9～10カ月健診時に変更）

2009年4月に、市の子育て支援施設Aの指定管理者の変更に伴って、当初よりブックスタートを実施していた社会福祉法人が、別のNPO法人に変わり、事業の見直しが行われた。新しい指定管理者によって、日本におけるブックスタートの普及活動を行っているNPOブックスタートから講師を招いた学習会が2009年12月に実施され、「全出生児に絵本を手渡す」という点が実現できていないことが明らかになった。これは、A市が人口の多い都市部であり、全出生児に絵本を手渡すには、予算の面から困難であることが大きな理由であった。753市区町村自治体（2010年11月30日現在、NPOブックスタートの調査）において実施されているブックスタートは、A市よりも規模の小さい自治体でより多く実施されている。

学習会で学んだことから、ブックスタートの「大切な5つのポイント」<sup>注1)</sup>に適うような方策はないかと主管課と指定管理者が話し合う中、オリジナル絵本の製作に着手することとなり、開発には筆者自身も携わることになった。

## 3. 絵本の開発

### 3.1 0歳児絵本に求められる要件

0歳児絵本にはどのような要件がもとめられているのだろうか。0歳児絵本のブックリストには、NPOブックスタートが2年ごとに選出するもののほか、さまざまな児童書等のブックリストにも、0歳向けを明示したものがある。今回は、赤ちゃん絵本には、どのような要件が求められているのかを知るため、22種類のブックリストや絵本選書を比較検討した白須（2006）の研究を参考にした。

白須（2006）は、心理学と形態学の視点の違いによって、同じ本の対象年齢が異なることを明らかにしている。0歳の絵本（10か月前後）としては、発達心理学と感覚教育を重視した発達論からは「五感を刺激する・同一性を感じさせる」「目になじむ中間色」の絵が推奨されている。形態学の視点からは「動作・しぐさの連続画」「背景が無地で見開きに1種類の絵→地平線があり背景と対象物の遠近感がある絵→2ページにわたる連続動作」「歌やリズムを扱ったもの→輪郭のはっきりした原色使いの絵→色彩や形の変化が楽しめるもの→個別の認識を生かした初期の探し物絵本」と、より細かく子どもの成長に合わせて表現方法を変化させることが推奨されている。これらは、依って立つ視点は違うが、あくまでも対象である赤ちゃんの発達に合わせた表現方法に視点を置いている。

しかし、子育て支援のツールとして絵本を考えた時、注目する必要があるのは、赤ちゃんの認識の発達ばかりではない。その絵本を利用することで、母親のどのような課題を解決しようとするのか、母親はどのように感じるのか、を考える必要がある。では、現在の母親はどのような課題を持っているのだろうか。

### 3.2 母親の抱える課題

深谷ら（2008）の育児不安に関する研究から、子育て不安尺度の数値が高い親は、心的要因としては「子ども好きでない」「親性の未形成」「子育てが楽しくない」「性格やタイプの硬さ」「自尊感情の低さ」「社会性のなさ」「伝統的価値観や性役割受容ができない」等があり、この背景となる環境的要因として「属性」「結婚・出産での仕事を辞めたこととその受け止め方」「出産後の体調の悪さ」「子育ての大変さや苦勞とその連続性」「生まれた子どもの夜泣きや病気がち」「妊娠・出産、子育ての予測と現実のギャップ」があると分析している。

子育て支援に携わるボランティアやスタッフも、「表情が乏しかったり、硬かったりする」「自分の子どもに目を向けない、言葉かけが非常に少ない」「他の母親となかなか交われない」母親については、「気になる利用者」と感じて、声をかけたり、他の親子との交流を促すなど気を配っている。石井（2008）

しかし、子育て不安尺度の数値が高い母親だけでなく、他の母親と交流もあり、子育て不安尺度が低い母親にも「気になる行動」が見られる。それは、0～1歳のまだ話さない子どもに対して、おむつ替え、授乳、その他のさまざまな場面で、母親が子どもに対して無言で行動することである。靴を脱がせる、抱き上げる、おもちゃを手渡す。子どもの泣き声やむずかりに対しても、何の声もかけずに抱いたり、おっぱいを含ませたりする母親が何人もいる。誰に対しても無口というわけではなく、母親同士ではよくおしゃべりをしている。作業をするように、手は子どもの世話をしながら、目線や意識は別に向かっているという様子である。自宅での様子を聞くと、テレビや携帯電話を見ながら授乳する、食事はテレビを見せながら口に入れている、という母親も多い。

これらの母親には、まだ言葉を話さない0歳児に対して、話しかける大切さ、意識を向ける重要性が理解されていない。親が話しかけ、子どもが喜んで反応し、それがまた親に喜びを与える。このような言葉を介した赤ちゃんとのやり取りを促進する絵本が必要と考えられる。

### 3.3 絵本の内容

母親の課題解決を主眼に、今回の絵本のポイントを整理した。

①子どもが話せるようになった時には、言葉のやりとり自体を楽しめる＝短い言葉の繰り返し、②内容を使って（発展させて）子どもと遊ぶことができる＝身近に見つけられる生物や自然、③親自身が楽しいと感じる＝ユーモア、④地域への愛着を育てる、⑤子どもの認識の発達に見合った表現（色、形）。以上を踏まえ、絵本『とんとんとん』の内容を決定した。

p.1（表紙）赤ちゃんの大きな顔と題字「とんとんとん」

p.2－3（団子虫の家）「とんとんとん だんごむしさん あそびましょ」

p.4－5（団子虫）「はーい」

p.6－7（雀の家）「とんとんとん すずめさん あそびましょ」

p.8－9（雀）「はーい」

p.10－11（川）「おーい かえるさん あそびましょ」

p.12－13（川から飛び出したたくさんの蛙）「はーい げろ わーい げこげこ くわっ」

p.14－15（マンション）「ぴんぼーん いぬさん ねこさん ねずみさん あそびましょ」

- p.16 - 17 (犬, 猫, 鼠)「わんわん にゃー ちゅうちゅう」
- p.18 - 19 (全部の生物)「みんな はーい」
- p.20 - 21 (あかちゃん)「あかちゃんも はーい」
- p.22 - 23 (滑り台のある公園で全員が遊ぶ様子)「おそとでいっばい あそびましょ」
- p.24 (裏表紙) 絵本開発の趣旨, ブックスタートについて, 推薦の言葉等

裏表紙には, 絵本を使った赤ちゃんとのやりとりや遊びの方法, ブックスタートの意味についてを掲載した。<sup>注2)</sup>

### 3.4 絵本の配布方法

これまで, A市では9~10カ月乳幼児健診で, ブックスタートのコーナーを作り, ブックリストを配布し, 読み聞かせボランティアが実演を行ってきた。健診の待ち時間に, 関心のある親が読み聞かせコーナーに自由に参加するという形式で, ブックリストはさまざまな配布資料とともに手渡される。9~10カ月というのは, 子どもが平面に描いた絵を認識できる頃のため, 発達の見地からブックスタートの実施時期として選ばれることが多い。しかし, 出産後3カ月までの母親は, 半数近くが強い子育て負担感を感じているということもあり, またブックスタートが本を読むことと言うよりも, 本を使って親が子どもに語りかけ, 親子の愛着を育てるということであるならば, もう少し早い時期に実施するほうがよいのではないか。また, 健診の際はあわただしく, なかなかじっくりと話を聞く余裕がないのではないか。

このようなことから, 保健所と指定管理者の話し合いの中で, 絵本の配布には, 児童虐待の防止, 早期発見を目的に実施されている「こんにちは赤ちゃん事業」の活用がアイデアとして出された。「こんにちは赤ちゃん事業」は, 保健所から専門の訪問員(保育士)が2カ月の子どもがいる家庭を直接訪問し, 母親の相談にのり, 地域の子育て支援情報を知らせながら, 母子の様子を把握するという保健所のアウトリーチ事業である。

この個別訪問は, 事前にアポイントを取るのだが, 留守であったり, 訪問を断るケースなど約3割の母親には会えずに終わっている。そこで, ブックスタート絵本の配布に関しては, 留守宅の場合, 絵本引換券を届け, 子育て支援施設A(保健所と同じ建物にある)で絵本を手渡すことにした。それによって, 訪問員が出会えなかった親子の様子をある程度確認でき, 子育て支援情報についても説明しながら知らせることができる。絵本を引き換えたケースについては, 子育て支援施設Aから保健所に報告し, 「こんにちは赤ちゃん事業」の効果を高める一助となる。ブックスタートの絵本を作ることから, 子育て支援センターとその主管課である子ども家庭支援課と保健所の連携が生まれたのである。

## 4. おわりに

子育て支援施設の指定管理者が変わったことが端緒となり, A市のブックスタート事業は大きく変貌を遂げようとしている。学習会によって, 他の自治体のように絵本を届けたいという願いが生まれ, 母親の養育行動を引き出すツールという新たな視点で絵本を開発した。また, 効果的な配布方法の模索から, 「こんにちは赤ちゃん事業」と「ブックスタート事業」が結びつき, 保

健所と子ども家庭支援課の連携が実現した。各地でブックスタートは絵本によって親子を結び付けるだけでなく、子どもを取り巻く人や組織のつながりを生みだしている。

本稿は、A市における子育て支援を目的とした絵本と、その配布システムの構築を通じて、子育て支援の新たな方法を提示するものである。

今後の課題としては、絵本の使用によって、母親の養育行動にどのような変化があったか、また、絵本の配布システムが児童虐待の防止にどのように役立つのかを検証していきたい。

## 【注】

注1) NPO ブックスタートの提唱する「大切な5つのポイント」

- ①ブックスタートは赤ちゃんと保護者が絵本を介して向き合い“あたたかくて楽しいことばのひととき”を持つことを応援します。
- ②ブックスタートは地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者が対象です。
- ③ブックスタートはメッセージを直接伝えながら絵本を手渡します。
- ④ブックスタートは地域内の連携のもとに地区町村単位で行われます。
- ⑤ブックスタートは特定の個人や団体の宣伝・営利・政治活動が目的ではありません。

NPO ブックスタート (2010)『赤ちゃん絵本をひらいたら ブックスタートはじまりの10年』岩波書店 より抜粋

注2)『とんとんとん』裏表紙

<絵本『とんとんとん』を手にするあなたに>

2009年4月から、NPO法人子どものみらい尼崎は市立すこやかプラザの指定管理者となりました。そこで、ぜひ尼崎で生まれたすべての赤ちゃんに絵本のプレゼントを実現したいと考え、さまざまな方々のご協力によって生まれたのがこの『とんとんとん』です。この絵本は、0歳の赤ちゃんの発達に合った表現と、親子の関わり遊びにつながることで、そして、“ふるさと尼崎”を念頭に制作しています。“尼”蛙の跳び出す武庫川、その向こうの六甲山、市内で出会える身近な生き物たち。どうぞ、「あかちゃん」の呼びかけ部分は、お子さんの名前を入れて読んでください。また、「とんとんとん」「はーい」と応答で遊んだり、ダンゴ虫やスズメを探してお散歩してくださいね。

「こんにちは赤ちゃん事業」で皆さんにこの絵本をお届けした訪問員、9～10か月健診時に読み聞かせをしているボランティア、その他、ブックスタート事業に関わる全ての方が、赤ちゃんとお母さん、お父さんの幸せを願っています。

最後に、私たちの思いに賛同して、“尼っ子”にふさわしい、元気で愉快的な絵を描いて下さった森義孝さんに心から感謝申し上げます。また、私のイメージを最初に絵にしてくれた小森夏海さん(当時小学6年生)、あなたが描いてくれた鉛筆画から、この絵本が生まれました。本当にありがとう。

NPO法人子どものみらい尼崎理事長 濱田格子

<推薦の言葉>

この絵本は母子の愛着を形成し、円満な人格を培う上で大変大きな役割を果たしてくれるように作られています。柔らかい、そして、暖かい色で描かれた生き物に調子のよいリズムで呼びかける。生き物はこの呼びかけに応じる。やがて最後に自分の名前がよばれる。赤ちゃんは自分の名前がよばれるのを期待しながら今か今かと待つ。すると最後にお母さんが、「○○ちゃん」と名前をよぶ。赤ちゃんは、期待の絶頂で「はーい!」と応える。待っていれば必ずお母さんが名前をよんでくれる。まさに、愛と信頼が、母子一体感が頂点に達した時だ。お母さんがこの本を手にしたときには、お母さんの気持ちに愛が満ちてくる。この本を見た赤ちゃんはお母さんの愛を感じて幸せな気持ちになる。なんといい本ができたことか。

関西国際大学子育て支援センター長・兵庫教育大学名誉教授 藤田継道

\*ブックスタートは、英国で始まった「すべての赤ちゃんのまわりで楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、一人ひとりの赤ちゃんに、絵本を開く楽しい体験といっしょに、絵本を手渡す活動」です。

NPO 法人ブックスタート ホームページから

『とんとんとん』 作 濱田格子・森義孝 絵 森義孝 2011年4月1日発行 企画・原案 濱田格子 編集・制作 森義孝 発行 NPO 法人子どものみらい尼崎（尼崎市立すこやかプラザ指定管理者） 印刷・製本 大日本印刷（株）

#### 【参考文献】

- (1) 武田京子, 大村佳奈 (2009) 「岩手県におけるブックスタートについて」 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第8号 99 - 105
- (2) NPO ブックスタート (2010) 『赤ちゃん絵本をひらいたら ブックスタートはじまりの10年』 岩波書店
- (3) 原崎聖子, 篠原しのぶ, 安永可奈子 (2009) 「母親の乳幼児養育に関する調査ーブックスタート事業36ヶ月児を中心にー」 福岡女学院大学紀要 73 - 82
- (4) 山崎洋子 (2009) 「公立図書館の乳幼児サービスと育児支援」 山梨大学看護学会誌 Vol.7 No.2
- (5) 白須康子 (2006) 「0～3歳児を対象とした絵本の選書～心理学的発達対応と形態学的発達対応～」 神奈川大学人文学会誌 159号 A59 - A86
- (6) 深谷昌志編著 (2008) 『育児不安の国際比較』 学文社
- (7) 石井栄子 (2008) 「分担研究報告書 II. 子育てひろばにおける支援のあり方に関する研究」 こども未来財団平成19年度児童関連サービス調査研究事業報告書「地域における子育て支援サービスの有効活用に関する研究」